

Roark, 1980; Kanzaki & Ohtsuka, 1991; Fournier-Chambrillon et al., 1995). 水田放棄地で有意に多くの掘り起こしが確認されたのは、これらの摂食が目的と考えられる。泥浴び跡の水田放棄地への集中は、泥浴びに必要な湿泥や用水路跡、湧き水の存在(第4章)が原因であろう。畑放棄地にもススキが繁茂しているが活動点は得られなかった。これは畑放棄地の面積が5.4ha(各環境区分の面積割合を求めた地域の0.1%)と極めて小さかったためと考えられる。

竹林には活動点が認められ、晩秋から春にかけて掘り起こし跡が多くなっていたが、これはこの時期に利用可能になるタケノコや竹の地下茎(上田, 1979)を利用していたためと考えられる。屋根付の休息場を形成するための低木や草本が少ないため、休息・避難場所としての竹林の利用は考えられない。

スギ・ヒノキ・アカマツの針葉樹林は広い面積を占めるにもかかわらず、イノシシの活動点と掘り起こしが少なかったのは、林床植生が乏しく、休息・避難場所としての機能が欠ける上に、地下茎などの餌も少ないことが原因と考えられる。当調査地域に限らず、スギ・ヒノキの人工壮齢林の下層植生が乏しいことは一般的によく知られており(沼田, 1977), こうした針葉樹林がイノシシによって忌避されることはこれまでも指摘されている(朝日ほか, 1975; 浦山・高橋, 1995)。

本調査では、水田、畑地、果樹園、牧場、宅地の活動点が無いか、あつ

でも僅かであった。これはテレメトリー調査が日中に実施された影響と考えられる。また、当地域では本種による水稲被害の発生が8月上旬から9月中旬に報告されているが(NOSAI島根, 私信), 本調査では水田における痕跡数が少なかった。これは水稲被害の発生時期が限定され(第3章), その時期の調査回数が偶然少なかったことが一因である。また小面積の水田ほど被害を受けやすい(第4章)が, 今回調査を実施した水田の平均面積が2.9haと大きかったことも影響していると考えられる。以上のことから落葉広葉樹林は休息・避難場所, 採食地を, 水田放棄地は休息・避難場所, 採食地, 泥浴び場所を, 竹林は採食場所をイノシシに提供することが確認された。

島根県では, 1960年代のイノシシ捕獲数は少なく, 年平均捕獲数は524頭であった(林野庁, 1962~1971)が, 1973年から急増して1970年代の年平均捕獲数は2,437頭に達した(林野庁, 1971~1973; 環境庁, 1974~1981)。その後も, 1980年代には年平均3,103頭, 1990年代には5,718頭(1990~1997年度)と増加し続けている(環境庁, 1982~1999)。狩猟免許登録者数が7,234人(1976年度)をピークに, 現在は3,273人(1997年度)(林野庁, 1962~1973; 環境庁, 1974~1999)と激減しているにも関わらずイノシシの捕獲数が増加したのは, 個体群の増加によって本種が捕獲されやすくなったためと考えられる。イノシシは30cm以上の積雪で移動を妨げられ, それが長期間持続すると生息が困難になる(常田・丸山, 1980)が, 一

部の山間地を除くと島根県でそのような地域はない（高橋，1995）．ハイイロオオカミ（*Canis lupus*）が絶滅して以後，イノシシの捕食者は存在しないが，大物猟の人気は高まっており（神崎・大東・伊藤，1997），狩猟圧の低下があったとは考えられない．また，給餌や放獣は行われていないことから，これらがイノシシ個体群の成長と分布域拡大の要因であったとは考えにくい．1950年代後半のエネルギー革命により放棄された薪炭林（島根木炭史編集委員会，1982）は現在も管理されておらず，1970年に始まった減反（山崎，1996）による水田放棄地の増加は未だに継続しており，イノシシにとっての好適環境は増加している．このことがイノシシの個体群成長及び分布域拡大を促したものと考えられる．

しばらくこの状況は続くと考えられるが，落葉広葉樹の二次林が自然植生である常緑広葉樹に遷移していけば，広葉樹林は本種にとって好適な環境でなくなる．その際にイノシシの個体群成長や農作物被害発生量がどのようになるかを推測することも，中山間地域のイノシシ管理を進める上での課題になるだろう．

付表1. 島根県浜田市及び金城町における1994年10月～1997年8月のラジオテレメトリー調査で得られたイノシシの環境区分別活動点数。
環境区分名直下の数字は各環境区分の面積を、括弧内は面積割合を示す。

個体	広葉樹林 2,209ha (39.4%)	針葉樹林 1,761ha (31.4%)	竹林 183ha (3.3%)	水田放棄地 39ha (0.7%)	自然裸地 193ha (3.4%)	牧場 41ha (0.7%)	水田 918ha (16.4%)	その他の区分 269ha (4.8%)	合計 5,612ha
A	73	10	24	14	0	0	0	0	121
B	31	5	0	4	0	2	0	0	42
C	38	9	1	10	0	0	0	0	58
D	66	41	4	0	3	0	0	0	114